

カリノグループが取得した三井住友銀行の旧熊本支店
= 3日、熊本市中央区



昭和モダン 価値ある宝

旧三井住友銀熊本支店 存続へ

昭和初期に建設された熊本市中央区魚屋町の旧三井住友銀行熊本支店の土地、建物を、不動産管理のカリノグループ（同市）が購入したが、3日分かった。用途は未定だが、現在の外観を維持したまま活用する方針。

旧支店は1934年の建築。鉄筋コンクリート3階建て（地下1階）で、延べ床面積1570平方メートル。新町・古町地区の一角にあり、ギリシヤ様式を採用した重厚な銀行建築物として、地域住民らから取り壊さず活用するよう求める声が上がっていた。

11月27日付で三井住友銀側と売買契約が成立。カリノグループは「景観や建物の価値を落とさないよう、地域の活性化につながるような活用方法を考えている」と述べた。取得額は非公表。

カリノノ取得

地域活性化に活用

望に沿った形で活用してもらえ
ることになった」としている。
旧支店については、地元の
自治協議会や「熊本まちなみ
トラスト」など5団体が連名
で、銀行側に移転後も建物の
価値が保たれるよう求める要
望書を提出していた。

同トラストの富士川一裕事
務局長（67）は「近代銀行の典
型的な建築様式で、県内では
唯一残る建物。大切な宝で、熊
本地震後に多くの歴史的建造
物が姿を消す中、喜ばしいこ
と」と歓迎。地元住民らでつ
くる「くまもと新町古町復興
プロジェクト」の上村元三三
人（60）も「朗報だ。かつて一帯
が銀行街だった歴史を刻んだ
建物で、息を吹き返せば復興
の象徴になる」と笑顔で話し
た。（宮崎達也、中原功一朗）